

# 第4次行財政改革推進計画案めぐり活発な議論 上越市行政改革大綱等策定委員会が終結

行革大綱等策定委員会が19日、市役所で開催されました。第4次上越市行政改革推進計画(案)がテーマでした。今月の27日には市の(案)が議会総務常任委員会に示される予定になっています。

事務局が示した計画(案)の概要によると、行財政改革推進にあたっては、「行財政改革による行財政運営の適正化」と「市民社会へのアプローチによる新しい公共」という2つの重点取組を大綱での柱に据え、40の「具体的な取組項目」を設定し、その推進を図る個別計画を策定し推進していくとしています。

この日の委員会での議論はたいへん活発で、「個別計画の熟度が上がっていない。行革推進

計画を策定するための個別計画策定になっていないか」「職員みんながこれを見て背中を押されるようでない」と計画には程遠い」「民間では当たり前なのことが書いてある。ふわっとしたもので仕事してもらったのでは困る」「組織機構改革と人材育成にこだわっている。そこで働く最低の人数が必要だ」など厳しい意見が相次ぎました。

## 基幹的総合事務所についても記述

委員に配布された(案)を見ていないので正確さに欠けるかも知れませんが、9月議会で話題となった基幹的総合事務所についても記述されていたようです。これまでの議会の議論で

は、大島、安塚、浦川原区の土木技術職員を浦川原区に集めて試行したいとの市長見解が示されています。そういうなかで、今回の案では、モデル案をつくって、モデルの拡大準備を進めるとしていることにたいして、

「いまの段階から拡大ありきはいかがなものか。試行したら検証することが先ではないか」といった疑問の声があがりました。市村総務管理部長は、「全市展開したいという思いを拡大準備と表現したものだ」と説明していました。推進計画案では、木田庁舎と各区総合事務所のあり方について、かなり踏み込んだ記述がされているようです。これは27日に議論の焦点のひとつになるでしょう。



いもご入りご飯がおいしい季節になりました。これは私が炊いたもの。



## 上越初の放射性物質検出器視察

19日の午後、ヨウ素やセシウムといった放射性物質について詳しく分析できるゲルマニウム半導体検出器を導入した上越環境科学センターを平良木議員と訪問、この検出器を見せていただきました。同検出器を導入したのは、上越環境科学センターが上越市内で初めてです。

びっくりしたのはこの検出器の重さです。上の四角い部分は厚さが10センチほどの鉛でできています。この重さが何と2トンもあるということです。下の四角い囲みの中には液体窒素がセットされていました。液体窒素はマイナス160度くらいですが、これで冷却しないと検出器の能力が発揮されないということでした。同検出器は約2000万円で購入したそうですが、維持費もばかにならないとのことでした。

この検出器は7日から供用開始しており、飲料水、野菜、食品、焼却灰、土壌、汚泥などの分析が可能といます。これまで20件ほど検査依頼があり、そのなかには玄米、焼却灰などのほか、母乳もあったそうです。放射性物質についての関心はそうとう高くなっているなと思いました。

敬老会にも二次会があるということを知りました。一〇月三日の午後、用があつて吉川区町田へ行ったところ、チヨさん宅がとてにぎやかです。玄関で声をかけると、何人もの人たちが「あら、橋爪さんだねかね、入んない」「入っていない」「入んない、入んない」と誘ってくださいました。

茶の間に入ってみると、驚きましたね、タカシさん、テルコさん、シヅオさん、ヨシさん、ミヨコさん、シヅコさん、ハツエさん、マツエさんなど町田から敬老会に参加したほとんどの人たちがお茶飲みをしているじゃありませんか。

顔ぶれを見てびっくりしたことが私の顔に出たのでしようか、こちらから質問もしないのに、ひとりの人がニコニコしながら、「おらたち、敬老会からそのままここんちに世話になってるがどね」と教えてくださいました。時計は午後三時をまわっていましたから、チヨさん宅ですすでに一時間はお茶飲みをしていたことになりました。よほど楽しかったのでしょう。

真ん中のテーブルの上を目をやると、茶菓子のほか、ピーマンとゴーヤの佃煮、緑色のトマトの酢漬け、シソの佃煮などがならんでいます。茶菓子以外はかなり食べたようです。特にトマトの酢漬けは評判がよかつたようで、小さな皿ひとつ分が残っているだけでした。「おらちにはこういうもんばつかなんど」とチヨさんに勧められた私は、トマトの酢漬けとシソの佃煮をいただきました。これだけで食べるのはもったいないくらいおいしかったので、「これじゃ、ご飯も食べたくなるね」と言うと、「やるかね、ご飯もあるよ」という言葉が返ってきました。

私が食べている間にもおしゃべりは続きます。おしゃべりにはもちろん私も参入させてもらいました。

「いや、支配人の中村さんの、歌うまいがにはびっくりしと。去年も同じ歌だったろかいね」

「あの人は細川たかしの歌がうまいんだね」

「ゆつたりの郷に勤めているしよの劇もいかつたこて。ちよつとエツチなところもあつたけどね」

「けつこうエツチだつたこてね、〇〇がなくなつたなんて言つちやつてさ」

お茶飲みをしている人の中には敬老会初参加の人もありました。シヅコさんです。お連れ合いを二年ほど前に亡くされています。ちょうどいまは季節の変わり目、斎場が混雑するほど多くの人が亡くなっていることから、シヅコさんのお連れ合いが亡くなった時にはどうしたかなど、人が亡くなった時の話でにぎやかになりました。

それを聞いて、私の方から、「さつき、敬老会で、みんながずっと生きていくことに決定したがに、また死んだ人の話になつちやつたね」と言うと、みんなが大笑いしました。

おしゃべりは方向転換し、町田城の話になりました。四百三十年ほど前、御館の乱で景勝勢と景虎勢の戦いの場となつた城です。誰かが小学校の先生に案内を頼まれたという話から始まって、空堀など城跡の整備や草刈りの苦労話に花が咲きました。

集まつた人のほとんどは連れ合いを亡くし「独身」ですが、延々と続くおしゃべりを聞いていると、さみしさはひとかけらもありません。でも、さみしいからこうしてお茶飲みをしているのかも。いずれにしても楽しい二次会でした。

## 60代女性ランナー、初登場

市内各地で文化、スポーツ行事が盛んです。16日は第7回吉川区駅伝でした。昨年より3チーム少ない7チームが参加。旧源農協前をスタートし、旧旭小学校グラウンドまでの9区間（全長19.2km）を走り、旭ランナーズが1時間11分10秒で3連勝しました。



レースは3区まで源パイレーツが1位でタスキをつなぎ、4区で旭ランナーズと競り合いました。4区で逆転した旭ランナーズは5区で圧倒的なスピードで走り抜けた小森選手が2位以下に大きく差をつけて60代ランナー、木村選手にタスキを渡し、そのまま最終区まで1位を維持しました。

今回の駅伝では高齢ランナーの奮闘、親子、兄弟選手の活躍が目立ちました。そのなかで原之町・大乘寺チームの塚田選手（写真の右の女性）は初出場、強風の中、頑張つて完走しました。竹直ライスセンター前の

中継所では大きな拍手で迎えられました。塚田選手は62歳の女性ランナー、吉川区の駅伝では初めての60代女性ランナーとなりました。

## 「ゆりかご」が20周年記念コンサート

旧吉川町時代に誕生したコーラスグループ、「ゆりかご」が結成20周年を迎え、15日に記念コンサートを開きました。

歌を歌ってみたいという人たちが週に1回集まり、2時間ほど練習する。それを20年も積み重ねてきました。代表して挨拶した常山ミサ子さんは、「練習に参加する時は、（心が冷静な日ばかりではなく）面白くないことがあったり、ストレスがたまっていることがあったりした日もあった。でも、みんなで歌うと心が晴れた」と語りました。歌を歌っている時のメンバーの顔は明るく、目も輝いていましたね。

コンサートでは沖縄の唄や金子みすずの作詞曲などを見事に歌い上げました。また参加者全員で「ドレミファ体操」などを楽しみました。ほんとうに楽しいひと時でした。

